

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) とは、国連サミットで採択された持続可能な社会の実現のために、2030年までに達成すべき国際目標。気候変動、エネルギー、水・衛生、保健など17のゴールと、それを細分化した169のターゲットで構成されます。

Topics 水資源機構初のSDGs債を発行

令和2年12月18日、水資源機構はサステナビリティボンド (SDGs債) を初めて発行しました。サステナビリティボンドとは、調達資金の用途が「環境改善効果がある (グリーン性)」「社会的課題の解決に資する (ソーシャル性)」の双方の性質を有する債券です。**気候変動への適応を目的とするサステナビリティボンドとしては国内初となります。**

※サステナビリティボンドのほか、グリーンボンド、ソーシャルボンド等を総称してSDGs債といえます。

近年、気候変動による渇水・洪水や施設の老朽化などのリスクが顕在化しています。水資源機構では、債券発行により調達した資金を活用して、ダム・用水路等の新築や改築を行ってきました。

さらに、これら施設を管理することで『安全で良質な水の安定した供給』『洪水被害の防止・軽減』等、SDGsの達成に向けて貢献しています。

債券市場では、SDGsを掲げる「ESG投資※1」が注目される中で、水資源債券をさらに魅力あるものとするため、サステナビリティボンド (SDGs債) を発行いたしました。

機構業務と特に関連性の高いSDGs

- 2 飢餓をゼロに
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 15 陸の豊かさも守ろう

サステナビリティボンド・フレームワーク※2の概要

解決すべき主要な環境・社会的課題	対象プロジェクト	プロジェクトの概要
渇水の頻発化への対応	治水事業 利水事業	用水路の建設、管理 ● 水道用水、農業用水及び工業用水を確保・補給、導水及び分水 ダムの建設、管理 ● 水の貯留及び渇水状況に応じた水の供給
水質の保全		水質の管理 ● 水質状況の把握 ● 水質保全対策の実施 ● 水質悪化発生時の対応
洪水調整機能による自然災害への対応		ダムの建設、管理 ● 洪水調節等による洪水被害の軽減 ● 河川の流水の正常な機能の維持等 ● 水道用水、農業用水及び工業用水の確保・補給

※1 ESG投資は、環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance) の3分野での企業の取り組みを評価した上で、投資先を見極める手法

※2 グリーンボンド、ソーシャルボンドの国際的な原則等に則り、調達した資金が環境性・社会性のある事業に充当されていることを担保する枠組み (フレームワーク)

Road to SDGs債

SDGs債発行に向けた道のりについて、財務部資金課の星野課長、金森課長補佐に聞きました。



財務部資金課 (右から) 星野課長、金森課長補佐



本債券により調達した資金を活用し、気候変動による渇水の頻発化や豪雨の激甚化等の課題を解決するために、治水・利水事業を通じた社会貢献活動を進めてまいります。

環境・社会的課題の解決に関する環境改善効果や社会的成果等は、ウェブサイト等にて公表します。今後も、SDGs債を通じて、より多くの方々に機構事業について理解を深めていただけるよう努めます。